

明治五年丁卯の迄至ノ

租穀手隊履一禁止

大坂真書館蔵

0574

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

ナニシテ金目石目ノ目ノ目

0575

2 2

狙撃隊編入人名

陽 狙撃隊長 大尉 吉利用通

北 第一小隊長 大尉 諫早清春

陽 第二小隊長 中尉 楯垣政敏

北 第三小隊長 中尉 多田弥吉

第一小隊

北 少尉 竹下正司

軍曹 石原寅次郎

日 森松二郎

日 藤井新作

大友真太郎

0576

傷	傷	傷	第二小隊				傷	傷	傷
四	四	四	四	四	四	四	四	四	
軍曹 田村 表 男	曹長 田宮 信 方	少尉 鈴木 畏 三郎	日 海 幸 造	日 長 上 林 喜 惣 次	日 栗 山 一 直	軍曹 得 兼 原 善 雄	空 下 長 山 有 雲 登	日 関 強 雄	

一ノノノノノノノノノノ

0577

軍曹青木景貫	日 柴村多三郎	日 濱田勤五郎	火下長石川 鏗 鏘	日 佐長野孝義光	日 中村正朔	日 多賀一	第3小隊	日 將試補本堂親德	日 曹長岩本金忠
--------	---------	---------	-----------	----------	--------	-------	------	-----------	----------

大友鎮基色三十九日

0578

明治十年三月六日肥後國南ノ関ニ於テ大坂鎮
台砲三共上下士官選抜別働狙撃隊ヲ編制セ
ラシ陸軍大尉吉利用通以下三十五名ナリ且特
典ヲ以テ士官三分ノ一下士二分ノ一増俸ヲ賜ルキ
旨征討總督本營ノ辭令アリ此等ヲ賊ヲ排
斥シ早シ熊本ニ通セントノ趣意ナル旨山縣參軍
三好大山兩少將直ニ士官以上江演達セラル各小
隊長ヨリ部下ノ其意ヲ傳ヘ直ニ出発日夜十二
時頃ホノ葉ニ達シ翌七日曉ニ俣村ニ至リカ一

大友真志郎

0580

ナリ通石上ノ口ノ所

旅團本營ニ告ケ曰日午前八時頃ヨリ陸軍大尉諫
 早清春ガ一小隊ヲ率ヒ二俣口ニ向テニ俣村ノ前面ニ
 一帯ノ谷アリ谷底平且耕作ノ地タリ対岸ニ賊堡星
 ヲ構ヘ頗リニ射撃彈丸雨注ス諫早大尉等奮進一
 鼓ニテ之ヲ拔キ進テ田原阜ニ達シ
田原阜上ノ二俣村ノ前面
 谷ノ隔テ平且大田圃ヲ
指入以下
 之ニ取テ
 近衛諸隊ト共ニ猶進メ平且大田圃ニ出ツ野
 徑皆凹道ナリ賊之ニ據テ出沒射撃ス我モ亦凹道ニ
 據リ銃戰久之而我隊奮然鯨波ヲ起シ皆銃ヲ以テ賊
 軍ニ突入遂ニ之ヲ走ラヌ賊走テ又他ノ堡星ニ據ル此際
 但長兼原善雄銃鎗ヲ取テ一賊ヲ追テ岳及賊止テ

銃ヲ發ス善雄彈ニ當リ倒ル雖然彈帶凡所ノ胆亂ニ
 當テ不入起テ再ニ賊ヲ追ヒ遂ニ之ニ死ス順叟ニテ賊
 銃ヲ放テ之ニ緝クニ拔刀隊ヲ以テ突出ス諫早大尉小
 奮戰之ニ當リ此時官賊錯雜戰甚亂諫早大尉之死
 シ尋テ軍曹岡強雄日藤井新作佐長瀧幸藏小皆
 格闘シテ死シテ下長山有雲登佐長上林喜惣次亦皆
 傷シ此日陸軍大尉吉村用通方ニ才三小隊ヲ率ヒ二俣
 ヲリ田原阪ノ南側ニ出テ仰テ田原阪ノ賊ヲ衝ク波
 トモ亦墨ニ依リ盛ニ射撃シ攻戰久之而不克此時ニ
 當テ佐長多賀一曰野本義光等割テ蒙ル翌八日方一

大友真甚色只爲口云云

小隊ノ残員ヲ分チテオニオニ小隊ノ端入シテ示隊十有餘
 名船垣中尉率ヒテ大坂鎮台歩兵兼原山佐石本大
 尉率テ二隊ニ先導シシニ俟ロヨリ田原阜ニ進ミ賊星
 ニ突入り謀リ悉ク中ヲ匆匆シ墨下ニ潛附シ敵ノ動
 作ヲ待ツ然ルニ我左側ノ歩兵早ク既ニ賊ノ坂刀隊ニ
 破ラズ賊機ニ乘ジ拳ヲ墨ヲ出テ銃刀ヲ以テ追ハ此際
 官賊錯乱隊中互ノ連絡ヲ失ヒ相助ルヲ得ス終ニ支
 ハ能ハズ止ヲ得ス歩兵ノ退兵ヲ叱咤シ止ラレテ旧守線ニ
 附テ歩兵配布ノ薄弱大部ニ集合シ再ビ爲ス所アラ
 ラントスルニ本營ノ命ヲ奉シ本堂中尉率テ引上グニキテ

下巻 目録 石上ノ山ノ陣

傳一二俣ニ歸ル此日ヤ故早ク墨中ニ引揚グルヲ以テ幸ニ
 死傷少ク竹下少尉一人敵丸ニ斃ルニ此日午後一時
 頃ニ至リ田原卓ノ戦開最モ烈ク攻進ノ歩兵方ニ遠
 迎ノ色アルヲ以テ多田中尉俄ニ本營ノ命ヲ奉シカニ
 小隊ヲ率ヒテ其前面迤邐ノ地ニ進ミ少ク之カ應援
 ヲ爲テ退ク同十日カニカニ小隊ヲ吉利大尉率テ田
 原卓最南ニ迂回シ攻撃セシヲ謀リ大尉以下二十六名
 午前六時頃ヨリ道ヲ二俣ノ南方ニ執リ行ク若干高山
 ノ麓ニ出ツ横平山ト山上敵ノ一隊露面ニテ放射ス花丸
 甚シ既ニ歩兵ノ烟畔ニ凌ヲ見之ニ至テ青山大尉ニ敵ノ

大坂真志色六名は...

景況ヲ問ヒ方向ヲ定メ之ヲ道ヲ互ニ轉シ敵丸ノ中
ヲ馳驅シ小溪ヲ徒涉シ田原阜ノ崖徑ヲ攀テ漸
クニシテ樹間ニ出テ進ムニ大ニ便ヲ得亦行ク若干
近衛歩兵ノ樹林ニ潛ムアリ其士官曰ク此前方賊星
アリ周圍菜園彼レ展望セバ小虫モ見ルベク喜進ミガ
クニシト且高きヲ禁ズモノ、如シ扱製之ヲ突クニ決スト
虽尼近衛士官參謀部ノ命ナキヲ訝ル言利大尉之ヲ
參謀部ニ伴ヒ終ニ午方三時ヲ以テ突入ノ期ト定
メ此近衛隊ヲシテ我が援隊ニ充テ狙撃隊尙且
潛行スル百ニ三十ノメイト人ニシテ敵星下ヨリ吶喊シ銃鎗

0585

ヲ揮テ突入ス賊周章狼狽彈薬糧食ヲステ、走ル
 一ニノ防守スル賊アリ、衆之ヲ刺シテ益追撃シ終ニ
 墨ヲ抜キ樵木街道ニ出ヅ當テ賊ヲ中断シ前後相
 通ビサラシメ狙撃弥ツトム然レ此際ヤ我が隊三ヶ
 所ニ分レ憤闘スト虽レ少員ナリ以テ連絡相通ビテ
 得テ敵賊我が寡少ナリ知り集リ来リテ對射ス相
 維持ス久シト虽レ援隊至ラズ賊亦如ク左右ヨリ迂
 回シ来リ亂射甚シク我が衆切嵩スト虽レ彈モ亦
 盡シトス多少相補ヒ且戦且退キ終ニ街道ヲ引キ
 既ニ奪ウ所ノ墨ニ據テ防グニ至ル賊多勢機ヲ得テ

大友真直日記ノ一頁ノ一

ナド金田石上ノ高ノ陣

カ戦シ我が苦戦シウゴラズ此日ヤ死傷甚ク多ク中
尉多田弥吉曹長岩本金忠軍曹藤田 延忠
河野田新吾心得栗山一直戦死シ大尉吉利用通
中尉稻垣政敏軍曹田村表男日加世田彦八負傷也
リ此戦ヲ終ルノ後人員甚減シ隊長及ロ中隊長死
傷セルニキリ少尉試補本堂親徳鈴木畏三郎
カ一旅團本營ニ建言ノ次オコシテ所征討惣督本
營ニ伺立ニ相立ベク由ニテ終ニ月十音解隊各本隊
ニ復セリ

0587

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

大正十一年四月二十一日

0588

